

テーマ：2012年10-12月期GDP（2次速報値）の予測
～ 前期比年率▲0.0%への小幅上方修正を予想 ～

発表日：2013年3月1日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

3月8日に内閣府から公表される2012年10-12月期実質GDP（2次速報）は前期比年率▲0.0%（前期比▲0.0%）と、1次速報段階の前期比年率▲0.4%（前期比▲0.1%）から小幅上方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計の結果を受けて、設備投資の上方修正が見込まれることがその理由である。ただし、上方修正幅は小さいため、景気認識に修正をもたらすものにはならないだろう。「輸出や設備投資といった企業部門の落ち込みを、個人消費と住宅投資など家計部門の好調さと復興需要による公的部門の押し上げがカバーすることで、GDP全体では概ねゼロ成長」という構図も1次速報から変化がない。また、10-12月期という四半期で見ればゼロ近傍の成長だが、月次で見れば既に12月以降改善に向かっているという状況も変わらない。

2012年10-12月期GDP2次速報値予測		1次速報実績	
	(%)		(%)
実質GDP	▲ 0.0	▲ 0.1	
(前期比年率)	▲ 0.0	▲ 0.4	
民間最終消費支出	0.4	0.4	
民間住宅	3.5	3.5	
民間企業設備	▲ 1.0	▲ 2.6	
民間在庫品増加(寄与度)	▲ 0.3	▲ 0.2	
政府最終消費支出	0.6	0.6	
公的固定資本形成	1.4	1.5	
財貨・サービスの輸出	▲ 3.7	▲ 3.7	
財貨・サービスの輸入	▲ 2.3	▲ 2.3	
名目GDP	▲ 0.3	▲ 0.4	
(前期比年率)	▲ 1.4	▲ 1.8	

※断りの無い場合、前期比(%)
(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は上方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計では、設備投資（名目）が季節調整済み前期比+0.9%と小幅ながらプラスに転じた。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整を行うと、増加幅はさらに拡大する。GDP 1次速報段階で反映されていなかった12月分の生産動態統計などの結果が想定よりも弱かったことは下方修正要因だが、法季要因による上方修正が勝る。結果として、GDP 2次速報では設備投資は前期比▲1.0%と、1次速報段階の同▲2.6%から上方修正されると予想する。「12年秋までの景気悪化や海外景気の減速、日中関係悪化による需要減懸念等を背景として、製造業を中心に企業が投資の手控え・先送りを行った」という状況は変わらないが、設備投資の抑制幅自体は1次速報で想定されていたよりも小さくなる。

在庫投資については、法人企業統計の仕掛品在庫、原材料在庫が1次速報の仮置き値より若干下振れた模様だ。在庫投資の前期比寄与度は▲0.3%Pt と、1次速報（▲0.2%Pt）から小幅下方修正されると予想する。

その他、公共投資は、1次速報段階で未公表だった12月分の建設総合統計の結果が反映されるが、1次速報段階の前期比+1.5%からほとんど変化はないだろう（前期比+1.4%へ僅かに下方修正されると予想）。